

研究授業（5年算数科「図形の角」富田先生7月12日）を終えて

「わかった」「できた」を実感できる算数科の授業
～数学的活動を通して学ぶ楽しさやよさをあじわう授業をめざして～
考える力・協働する力・がんばり抜く力

檜原先生の授業までの「共通実践」と「取組の検証」

視点①本時の学習の知識を意識させる。

視点②相手意識を持ち、自分たちで学びを深める。

視点③ただの文章ではない、実感を伴ったまとめやふり返り。

（鴨川）先生の改善点
子どもの多様な考えを大切にする。

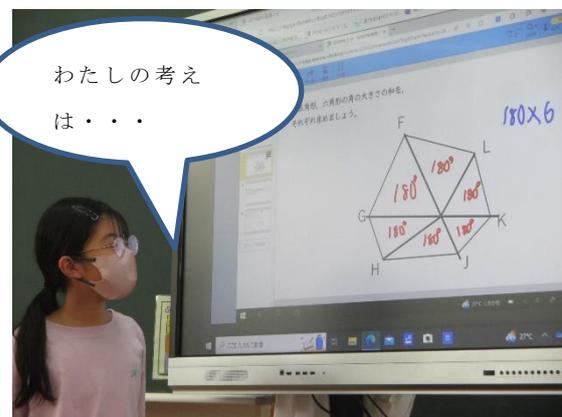
（廣田）先生の改善点
ICTを活用し、子どもの意見を可視化する。
まとめを子どもと練り上げ、みんなが納得できるような言葉におとす。

（小坂）先生の改善点
自分一人で考えたものに、友だちのものを見たり聞いたりして思考を広げ、深めていけるようにしたい。（自由に考えを求めて動く時間の設定・ICTの活用）

（前田）先生の改善点
発表するときに相手意識を持たせる。

（永杉）先生の感想
多様な考えが引き出せて、それぞれ説明ができていたと思います。

（増田）先生の感想
カード学習から五角形、六角形への理解を深めた上での授業へのつながりが子どもたちの意欲を高めたように思います。多くの子どもたちが発表し、楽しく学習していた姿に好感が持てました。



（大津山）先生の改善点
子どもの言葉をしっかり使って、めあてやまとめをきめる。

（檜原）先生の改善点
タブレットの発表ノートを活用する。
まとめに必要な内容を板書で振り返りながら確認する。

（古川校長）先生のアドバイス
子どもからの図形の見方の本質にあたる発言を問いにして、話し合うようにしましょう。分からないことが分かってこそ、子どもは分かる面白さを感じると思います。



研究授業、ありがとうございました。タブレットを活用した学びが素晴らしい授業でした。タブレットなどのICTが、主体的な学習はもちろん、協働的な学びにも有効だったのが実感できていると思います。これからも、いろいろな場面で活用していきましょう。